

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘
編集人 片岡 伸子

No.651 ★伊藤忠記念財団子ども文庫助成先決定(3・4頁)

定価 60円 会員の購読料は
会費の中に含まれる



多様性のある、豊かな出版活動を目指して

児童書出版社の立場から

日本児童図書出版協会会長
株式会社あかね書房代表取締役社長

おかもとみつはる
岡本光晴

結成以来、日本児童図書出版協会は、「児童図書出版文化の向上と優良児童図書の普及」という目的をもって活動してきました。前会長の評論社・竹下晴信社長、前々会長の小峰書店・小峰紀雄前社長が牽引してこられた約30年の間に、「学校図書館法」の改正、「子どもの読書活動の推進に関する法律」などの法制化、「学校図書館図書整備等5か年計画」などの読書環境整備、また、子どもたちと本との出会いの場でもある「上野の森親子ブックフェスタ」や「絵本ワールド」などのイベント開催など、関連諸団体とも連携して活動の幅を広げ、子どもの読書環境に大きく寄与してきたと自負しております。まさに「継続は力なり」と申しますが、今

後ともその道を継承し、子どもと子どもの本の未来がさらに広がるように活動してまいりたいと考えております。

あつてのことと、あらためて感謝申し上げるとともに、引き続きのご支援をお願いいたします。

コロナ禍の中、2年近くが経過しました。当初はいままとと同じように各出版社が、また協会として活動ができるのかという不安もありました。しかし、振り返りますと、多少の影響はあったものの、活発な出版活動が維持できたのではと感じております。

それはわれわれの力だけではなく、各社の刊行物を読者に届けてくださっている書店さまや物流関係の方々はもちろんのこと、日々、読書推進のために草の根の活動をされているボランティアの方々をはじめ、子どもたちの読書活動に携わっている多くの方々

現在、当協会会員社だけでも、年間約1900点の新刊を出版しております。児童書と分類される作品でも、そのジャンルは、知識を得られるような学習的なもの、物語の世界を堪能できるような文学的なもの、読書を通して遊びを楽しむ娯楽的なものなど多岐にわたり、そして、対象読者も0歳から10代、20代、そして大人までと幅広く、多様な出版活動がなされていると、言ってもいいでしょう。

しかし、すべての本が多くの人々の手に渡り、そして読んでもほしいとの思いが読者にきちんと伝わっているのかと言え、残念ながら必ずしも、そうではないのが実状です。少しでも著者や編集者の思いが届けられるように、またひとりでも多くの子どもたちが本との出会いを得られるように、協会としても各会員社の出版物や活動の情報を発信していきます。月刊『こどもの本』、年度版『乳幼児・小学生のための絵本ガイド』、『小学生・中学生のための読書ブックガイド』の刊行、またホームページ上での広報活動などが一助となるよう願っています。

一冊一冊の本には、その本の使命があると思います。たとえ少数でも、その人にとって必要なタイミングで一冊の本との出会いがあれば、その本の役割の一端は果たせたのではないかと考えています。

本や読書が生活の中で、読者に寄りそう形で存在しているのが理想の姿と、私はそう思います。たとえ読書を離れたとしても、本が身近にあることで、癒やしや安心に繋がっていつてほしいと、強く希望する次第でございます。

まれることが必要です。

北海道 やまねこくらぶ
栃木県 社会福祉法人 那須烏山市
社会福祉協議会
くれよんクラブ

東京都 東京都立光明学園
東京都 東京都立水元小台学園
石川県 金沢大学人間社会学域
学校教育学類附属

特別支援学校
福井県 福井県立
奥越特別支援学校

福井県 福井県立直貢学校
大阪府 ダウン症研究所

和歌山県 社会福祉法人
和歌山県社会施設

鳥取県 鳥取大学附属
こぼと園
事業会児童養護施設

香川県 特別支援学校
特定非営利活動法人
メロディー

佐賀県 佐賀県立
中原特別支援学校本校舎

長崎県 長崎県立直貢学校
大分県 大分県立直貢学校
熊本県 お山のかぼちゃん文庫

◆子どもの本100冊 助成先一覧(31件)

対象年齢別に「小学校低学年向け」「小学校中学年向け」「小学校高学年向け」「乳幼児向け(新設)」の4セットを用意。セットはそれぞれ、同財団が選んだ100冊の図書で構成されています。助成対象は「購入費助成」「病院・施設子ども読書活動費助成」と共通。活動歴は問いませんが、今後も継続した活動が見込まれることが必要です。

2017年度より、2000年以降に出版された図書を中心に同財団が選んだ150冊のリストも用意され、希望する対象年齢向けセットの一部(40冊を上限とする)を、ほかの年齢向けセットと150冊リストにある図書と入れ替えることが可能となっています。

《小学校低学年向け》13件
北海道 えほんらいぶらりー千歳
愛知県 読書朗読の会あうん
滋賀県 おひさま文庫
京都府 おにぎり文庫
大阪府 えほん文庫
大阪府 「てんととムシムシ」
鳥取県 おはなしてぶくろ
読み聞かせの会ぐりぐら

広島県 親子読書 あじさいの会
福岡県 やまえ文庫
佐賀県 「ともに学ぼう!」
「日本の言葉生活文化」
アメリカ わくわく文庫
オーストラリア I C B A カニカニ文庫
スイス 日本語教室
かんガエルクラブ

《小学校中学年向け》6件
滋賀県 お話ボランティア
グループ「夢のつばさ」
鳥根県 おはなしエンデの会
アメリカ ミネアポリス
国際児童文庫協会
U K 支部 あけぼの文庫
中国 上海ひまわり文庫
フィンランド オーロラ文庫

《小学校高学年向け》5件
東京都 読み聞かせの会
京都府 京初モモニ
鳥取県 サークル☆ほろろ星
鳥取県 ほろろのとつと
スイス スイス ヤドリギ
子ども文庫

《乳幼児向け》7件
宮城県 亘理町立図書館
読み聞かせボランティア
「ほつぽ」
滋賀県 おはなしボランティアと
芸術の会

◆子ども文庫功労賞

滋賀県 トラのパンツ
大阪府 まち・かどや本舗
兵庫県 cho-colo ほんわか
香川県 ひだまり文庫
鹿児島県 おはなしの木

「子ども文庫助成」プログラムのひとつ。子ども文庫を永年(20年以上)にわたり運営してきた個人で、子どもの読書啓発活動に貢献してきた方を顕彰する賞です。1984年の第1回以来、昨年度までに83名に贈られています。

本年の受賞者は、高橋美知子さん(岩手県)、渡邊満州子さん(愛知県)、岩田美津子さん(大阪府)の3名です。

高橋さんは、1975年からストーリーテリングを始め、盛岡市立図書館での「お話の会」を現在まで展開しています。1977年に「うれし野文庫(現・NPO法人うれし野子ども図書室)」を開設。2011年11月に東日本大震災で大きな被害を受けた陸前高田市にうれし野子ども図書館分室「ちいさいおうち」を設置しました。陸前高田市、釜石市の小学校図書室の整備にも携わり、被災地

の子どもの読書を強く支援されました。渡邊さんは、1994年に津具村の自宅の一室を開放して「きらきら文庫」を開設。書店も図書館もなかった村で、貴重な1800の絵本や児童書が置かれた文庫は、子どもたちの貴重な居場所となり、現在にいたっています。また、文庫に通う子どもたちの保護者とともに「語りの会」も立ちあげ、小学校・保育園での読み聞かせ、定期的なイベント開催など、地域の子どもの読書推進に深く貢献されています。岩田さんは、ご自身が視覚障がい者。子育てのなか、子どもと一緒に絵本を楽しみたいと感じて、1984年「点訳絵本の会 岩田文庫(現・てんやく絵本ふれあい文庫)」を大阪市に開設。点訳絵本の製作と全国への貸出を始めました。「視覚障がい者が暗眼者とともに絵本を楽しむ喜びをわかちあう」を活動理念に、絵本出版社や編集者、研究者、印刷関係者などと手を組み、点字付き絵本の出版普及を促進する「点字つき絵本の出版と普及を考える会」を2004年に発足させています。

「子どもの読書推進会議」2021年度第2回総会

コロナ下でも実施可能な読書推進活動を模索

2月1日(火)、「子どもの読書推進会議」2021年度第2回総会が、ビデオ会議で開催され、「2021年度上半期収支計算書」、「2021年度絵本ワールド事業報告」および「2022年度絵本ワールド事業計画」、「上野の森親子ブックフェスタ2022事業計画」が説明・討議を経て承認された。

「絵本ワールド事業」については4か所開催のうち1か所が中止、2022年度開催予定も1か所にとどまるなど、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けていることが報告された。

2年続けてリアルでの開催ができなかった「上野の森親子ブックフェスタ」については、今年は万全のコロナ対策を施したうえで、5月3日(初)〜5日(初)開催予定で準備中であることが報告され、あわせて主催者拠出金を100万円として2022年度予算案に計上することが承認された。

議事終了後に各参加団体からの活動報告があり、最後に2022年度の予定を確認して閉会となった。



万全の感染対策をとり開催された「絵本ワールドinふくしま」

文部科学省「子ども読書の日」啓発ポスター

「読んで！読んで！」の声が聞こえてきます！



今年の「子ども読書の日」ポスター

文部科学省は、全国の公共図書館、小中高等学校、幼稚園などに配布する4月23日「子ども読書の日」啓発ポスターを制作しました。3月下旬には日本出版取次協会の協力で、読書推進運動協議会の「子どもの読書週間」ポスターとあわせ、書店へも配布される予定です。今年のポスターも、とよたかずひこさんの描きおろしイラスト。キャッチフレーズは「読んで！読んで！つばい読んで！」。制約の多い中での開催が続くおはなし会ですが、子どもたちの輝く瞳は変わりません。子どもと、読書に関わる大人たちへ、エールを！

第56回新風賞贈賞式開催

新潮社が2年連続の受賞に輝く

超える売れ行き。

各地域を代表する書店のネットワークである書店新風会主催の「第56回新風賞」贈賞式が、1月12日(火)、東京新宿区のハイアットリージェンシー東京で行われた。新風賞を受賞したのは、アンデシュ・ハンセン著／久山葉子訳『マホ脳』（新潮新書）。同書は、スマホをはじめとするデジタル・デバイスへの依存と脳に与える影響について、スウェーデンの精神科医である著者が警鐘を鳴らした1冊で、世界的にもベストセラーとなっている。日本語版は2020年11月の発売以来、19刷93万部を

賞の贈呈を受けた新潮社の営業担当取締役・伊藤幸人氏は「ぼくはイエローでホワイトで、ちよつとブルー」に続いて2年連続の受賞はたいへん光栄。紙の本の大切さを説いたこの本には出版社として特別な思いがあり、40万部を超えた時点で各書店にそのことをつづったお手紙を差し上げ、さらに売り伸ばしていただくことができた」と受賞の喜びを語った。

また著者のハンセン氏はビデオメッセージを寄せ「本書では、依存性など、デジタルの影の部分を伝えたかった。日本でもたくさんの方に読んでいただけてうれし」と述べた。



大垣守弘・書店新風会会長から賞が手渡された

■第37回「梓会出版文化賞」受賞社紹介

老舗出版社の底力
筑摩書房が二度目の受賞

1月13日(木)に開催予定だった「第37回 梓会出版文化賞」第18回新聞社芸文文化賞贈呈式は新型コロナウイルス感染症の急拡大のため、残念ながら中止となった。

この賞は、専門書を中心とする出版社108社が加盟する「一般社団法人 出版梓会」が贈呈しているもので、今回は五十嵐太郎、加藤陽子、斎藤美奈子、外岡秀俊(選考後に急逝)、竹内薫の5氏による選考の結果、筑摩書房が第4回・1988年度に続いて2回目の受賞をえた。老舗出版社である同社だが、松岡和子訳『シェイク

スピア全集』、『世界哲学史』、『ルボ入管 絶望の外国人収容施設』といった大型企画や良書を、入手しやすい文庫・新書の形で刊行したことが評価された。

同特別賞は、現代書館と文一総合出版が受賞。前者は『フォーク・ピギナーズ』、『いま読む! 名著』などのシリーズに加え、ジャンルを広げジェンダー系の本を積極的に刊行していること、後者は『BIRDER SPECIAL 羽根識別マニュアル』や『クモの巣ハンドブック』などユニークな図鑑やマニュアルを刊行していることが支持を集め、受賞にいたった。



東京・神保町の出版クラブビルでは3月4日まで受賞社の図書と日常が紹介されている

新聞社・通信社の文化部長が選ぶ「第18回 新聞社芸文文化賞」には、『活動写真弁史 映画に魂を吹き込む人びと』や、『植物園の世紀 イギリス帝国の植物政策』などの力作を刊行している、共和国が選ばれた。同社は代表の下平尾直(しもひらお・なおし)氏が2014年に設立した「一人出版社」であり、現在までに66点の本を刊行している。

■JBBY子どもの本の翻訳フォーラム

国の違い、多様性の提示で
子どもたちの新しい扉となる本を

一般社団法人 日本国際児童図書評議会(JBBY)は、1月22日(土)に「第4回 JBBY子どもの本の翻訳フォーラム」子どもの本・日本と世界―視野の違いを

探る』を、オンラインで開催した。コーディネーターはJBBY会長で英語翻訳家のさくまゆみこさん。パネリストはスペイン語翻訳家の宇野和美さん、児童文学作家でイタリア在住の佐藤まどかさん、児童文学作家でドイツ在住の那須田淳さん。

さくまさんは、JBBYは外国と日本双方にそれぞれの子どもの本を紹介しているが、「日本と外国の作家・出版社の視点の違いを感じる。特に大きな違いは、『作品のテーマが世間か世界か?』『普通と違う?』特別なのか?』『マジョリテイの価値観か、多様性か?』の3点があると思う」と述べた。

その後、パネリストが交代で発言。翻訳する作品を自分で探して、出版社に持ち込んでいる宇野さんは、「どんな本を翻訳し、子どもたちに読んでもらいたいかを、つ

ねに考えている。ラテンアメリカの作品を紹介したいが、貧困や暴力を扱ったものが多く、日本の読者、出版社になかなか受け入れられない」と語り、厳しいテーマでも子どもが楽しみ、その国や社会との違いを考えるきっかけとなる作品を紹介したいと述べた。

佐藤さんは、「イタリアでは特別支援学級はなく、教室にはかならず、ハンディキャップのある子、養子や移民の子がいる。そうした子どもをバックアップするために補助の教員がつく」と、いろいろな子どもが一緒にいて、「違っているのが当たり前」の学校の様子を紹介。自身の著作の舞台がほとんど日本である理由として、「日本の子どものカタカナの名前が苦手。外国に興味がある読者が少ない」ことをあげた。

翻訳と創作どちらも手がけているが、「創作の方が中心」という那須田さんは、「日本にも多様性はあるはずが、それがテーマとして表れてこない。ドイツでは歴史と環境がキーワード。どちらも

日常的、身近に子どもたちが考えている。第2次世界大戦中、そしてコロナ禍の期間にながったか、どんな時間だったのか、それが今後の自分のテーマになるのでは」と語った。

パネリストとして予定されていた英語翻訳家のこだまともさんは、都合により欠席。「自分が訳してきた作品は」当事者性を大切にしていて、この世界は単純なものではないと、子どもたちに知らせている。テーマは大切だが、もっと大切なのは、いかに伝えるかではないかとメッセージをよせた。その後のディスカッションでは、「海外の作品は、物語のあとに多様性がついてくる。日本の作品はテーマ先行の面が強いようだ」「日本はまだ、多様性に慣れていない。違うことが作品に自然に描かれるのには、まだ時間がかかる」などの違いがさらに紹介された。また、翻訳作品の出版が厳しい現状について、「わかりやすく、なじみやすさだけを求めず、いろいろな本を子どもたちに届けてほしい」「子どもは年齢で読む力が違うので、いちばん読んでほしい年齢層を意識して訳す」「中編を連作にするなど、パッケージを工夫したい」などの意見もでた。

優良読書グループの歩み (2)

2021年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。

(順不同)

読み聞かせ
ボランティア「こころ」

代表者 今野美彌子

岩手県大船渡市

〈推薦〉
岩手県読書推進運動協議会

私(代表者)が立根保育園在職中、大船渡市中央公民館、市立図書館の講師に招かれ、その縁で図書館行事に参加するようになり、その後、立根保育園OB、主任児童委員の仲間、私が講師を務めた市主催読み聞かせ研修会の参加者や、人形劇仲間たちが集まり、2002年4月1日に読み聞かせボランティア「こころ」を結成、現在にいたります。

「こころ」は、読み聞かせなどとおし、親子のふれあい、児童の健全育成、高齢者との語らい、安らぎの場を提供し、一人ひとりが心豊かな思いで過ごせるような支援をすることを目的とし、賛同する人を会員としています。

役員は会長1名、幹事2名で任期は2年。会員は現在5名です。会費はなく、必要に応じて会議を開き、活動内容を決定しています。「こころ」は、大船渡市内の各種施設で、読み聞かせをしています。定期的に行っているものを以下に挙げます。

- ・乳幼児子育て支援(保育所・児童・学校など)
- ・市立立根小学校「朝読書」 1・2年生対象 8時15分から10分開
- ・大船渡市立図書館利用者対象「おはなしパレード」 隔月第2土曜日 11時から30分間
- ・老人福祉施設入所者対象「音楽療法」「読み聞かせ」 毎月第1金曜日・第3月曜日 1時間
- ・ブックポートネギシ本店 来店者対象読み聞かせ 毎月第2日曜日 11時から30分間
- ・高齢者交流地域サロン6か所 月1回(10時〜12時) 会場は各地域の公民館(末崎町、大船渡町、立根町、三陸町吉浜、日頃市町) ここでは読み聞かせのほか、歌、

ゲーム、手芸、折り紙、料理なども取り入れています。

活動の継続のために、知人や市立図書館ボランティア実習生に「こころ」への加入をお願いしたいと思っています。読み聞かせ活動は、参加者から元気がいただけ、ますし、家族同様の交流もでき、ともに学びあえるチャンスとなっています。現在、コロナ禍で活動ができないのが、残念です。

活動が継続しているのは、会員みんなが健康であり、交流の場の提供があるおかげです。ときには、リズム遊戲、折り紙、ゲーム、歌唱、踊り、軽体操、指人形を取り入れて楽しんでいます。



小学校の朝読書での読み聞かせ

今後は、居場所ハウスの開設にも取り組みたいと思っています。

石川読書グループ
研究会

代表者 伊達 祥子

石川県金沢市

〈推薦〉

石川県読書推進運動協議会

「石川読書グループ研究会」は1972年に石川県内各地域読書会のリーダーを養成する目的で発足しました。石川県立図書館の応援をいただいて、山本弘子氏・紫藤律子氏などが加賀・能登の各地を回って読書会活動の活性化に尽力されました。それと同時に読書会リーダーの育成のためテキスト研究を主目的として、月1回の例会を開いていました。輪島市や珠洲市など車で2時間かかる所から集まっていた研究会だったので、その熱意に頭が下がります。

「石川読書グループ研究会」は来年50周年を迎えます。50年間活動してこれた先輩たちの努力に心から敬意を表します。しかしこの間、私たちを取り巻く環境はすいぶん変化しました。そして多分に漏れず読書会の会員はどんどん高

先輩たちから受けついで活動を
守り次代へつなげたい



齢化しており、県下各地から集まることが困難になってきています。どのような形で設立当初の役割をはたしていったらよいのか、大きな課題となっています。

さて、現在、私たちは8名の会員で活動しています。金沢市のほか、七尾市や津幡町の人々も参加しています。読書会例会は毎月1回行っていますが、個性豊かな会員の話し合いは毎回、ほんとうに楽しいものです。例会はまず、テキストの感想を述べることから始まりますが、人数が少ないので自由な話し合いができますし、作家論や時代背景はもちろんのこと、詳しい知識を持つ会員ばかりなので、内容の濃い深い読みや理解が

できていると自負しています。どのような作品でもみんなて話しようと思えることが多く、自分がつまらないと思っていた作品でもなるほどと納得でき、読書会のよさを満喫しています。

また、毎年、新年会やお花見をして親睦を深めています。一昨年は軽井沢で文学散歩を行いました。小諸で島崎藤村をしのび、軽井沢の文学記念館や室生屋星の別荘を自転車で訪ね、それはそれは楽しい旅でした。コロナ禍のため、それらの楽しい会はすべて中止になってしまいました。コロナが落ち着いたら再開しようと、話しかけています。

もうひとつの大切な活動は、石川県読書会連絡協議会が石川県立図書館と一緒に開催している「読書を楽しむための講座」や「本を読む仲間集い」の運営に協力することです。特に「本を読む仲間の集い」は加賀地区大会と能登地区大会がありますが、そこへ出てきて助言や司会・記録などの仕事を手伝っています。自分たちの読書会だけでなく、会設立当初の活動を続けるにはどうしたらよいかを考えるこのころです。

読み聞かせグループ 「よみっこ★か〜も」

代表者 森住 啓子

徳島県吉野川市

〈推薦〉
徳島県読書振興協議会

昨日、コロナで延期されていた高校生の読み聞かせ研修会が実施された。この研修会には例年30人を超える高校生が出席し、彼らからピュアで新鮮な感動をいただいている。

彼らと一緒に絵本を手取ることで、読み聞かせをスタートしたあの日あとのときの緊張感、かすかな不安、そして終わったときの安堵感が蘇る。

絵本を介した心の交流、心の響きあいは、ひとりで読むときには味わいにくい。読み聞かせをとおしてたくさん本や絵本に出会えたが、いちばん大きな喜びは、この心と心の響きあひであると思う。

また、絵本の持つ深い芸術性に驚き、感動している。まさに絵本は「子どもが初めて出会う文学であり芸術」である。

さて、読み聞かせグループ「よみっこ★か〜も」は、1988年、

鴨島公民館の開館と同時に併設された鴨島図書室でスタートしたボランティアグループ「絵本とお話の会」を引き継ぐ形で、2010年、会員5名で活動を開始した。目的は、絵本の読み聞かせをとおして子どもたちの心をはぐくみ、絵本の楽しさを伝えること。

現在、会員は14名で、絵本の読み聞かせに興味があり、絵本をとおして子どもとのふれあいを楽しめる会員が集まり、読み聞かせの研修や読書活動を通じた交流を行っている。

この図書室には公募により作成した手作り絵本があつた。この手作り絵本が「よみっこ★か〜もとお話タイム」としてケーブルテレビ放映がスタートするきっかけになった。

そして昨年、念願の吉野川市立鴨島図書館が開館され、活動の場が移ることになった。

現在の主な活動は、

1、吉野川市立鴨島図書館での定期的な読み聞かせ活動(月1回30分)

2、ケーブルテレビでの放映「よみっこ★か〜もとお話タイム」(毎水曜日15分枠)

3、地域の教育現場(小学校、高校、児童館など)での読み聞かせ活動

おはなし会、読み聞かせ講座、テレビ番組と多彩な活動



4、地域の公民館などで高齢者を対象にしたレクリエーション的なおはなし会

5、高校生を対象にした読み聞かせ講座の講師(年1回)

これらの活動が会員相互の親睦と生きがいづくりになっている。

今後の展望として、図書館との連携で、小学校や地域に引き継がれ語り継がれたいろいろな伝承を掘り起こし、紙芝居などに作成する。それをケーブルテレビで放映し、地域の防災や文化の発信を担うことである。それが地域での社会貢献活動につながっていければと思っている。

いま、私たちは、活動の場が移ったことで途絶えた「よみっこ

★か〜ものクリスマス会」の準備に、日々奔走している。このクリスマス会では手作り人形劇を上演してきた。今年は人形からペープサートに変えた劇を上演する。毎前回日までワアワアと練習を繰り返す。「もうやめたい」と思うこともあるが、開催した達成感、子どもたちの喜ぶ顔が、その心を吹き飛ばす。会員それぞれが背伸びせず、自分ができることを持ち寄り、あの楽しさを思い出しながら、クリスマス会の開催を心待ちにしている。



ひとみキラキラ 本にどきどき

「紙芝居文化の会」創立20周年

紙芝居の歴史と普及を振りかえる 特別記念号を発行

文化としての紙芝居を研究し、学びあうことを目的とする「紙芝居文化の会」は、2021年12月に創立20周年を迎えた。それを記念して、『紙芝居文化の会 会報38号』を「創立20周年記念特別号」として発行した。

特別号には、この20年に加え、創立前の約20年の歴史を含めた年表で、国内外での紙芝居研究や実践の歩みが紹介されている。

また、「紙芝居と絵本のちがいは」「紙芝居の演じ方」など、紙芝居を始める人たちが多くよせられる疑問に答える「みんな知りたいQ&A」や、世界各国への紙芝居の普及を示す「世界へ広がる紙芝居」もあり、紙芝居の歴史、実践の資料としての側面もある内容となっている。

「ワイメンズうちどくネットワーク(WUN)」

全国の「家読」仲間との 連携を目指すネットワークが誕生

家族で本を読みあひ、コミュニケーションと読書を深める「家読(うちどく)」を推進し、地域の読書運動のいっそうの発展を目指す女性関係者たちのネットワーク「ワイメンズうちどくネットワーク(WUN)」が、2021年11月に発足した。

このネットワークは、全国の自治体・教育委員会・図書館・公民館・学校・こども園・幼児保育園などで

読書推進に取り組んでいる女性たちが、自由な意見交換や情報を共有し、それぞれが所属する団体・地域の読書活動へ活かしていくことを目的としている。子どもの読書推進と地域の読書文化向上を目指す志とともにし、行政、各施設の立場を超えた全国ネットワークの構築に期待したい。

ワイメンズうちどくネットワーク代表の桑原真希さん(福島県平



『紙芝居文化の会 会報』
田畑精一さんの「ロボット・カミィ」が表紙です

事実の列記だけでなくように工夫した。紙芝居の奥深さへ誘う一助になれば幸いです」と述べている。会報は紙芝居文化の会ホームページより入手可能(有料)。詳しくは同会ホームページまで
https://www.kamishibai-ikajia.com/

田村立ひらたこども園)は、このネットワークを立ちあげた趣旨をつぎのように語っている。

「家族の絆をより深く、やさしく、温かくしてくれる『家読』。本を中心とした心の通いあひや、このネットワークのように本を楽しむ人びとの語りあひが、静かな波のように行き渡っていくことを想像すると、胸が高鳴ります。ぜひ親子で一緒に、『家読』始めてみませんか?」

●ワイメンズうちどくネットワーク事務局

e-mail wun@vix.co.jp
(担当:春日美佐子ちゃん)

事務局報告(1月)

- ・5日「子ども読書の日」ポスターについて文部科学省と打ちあわせ
- ・6日「子ども読書の日」ポスター初校について、とよたかずひこさん、ブラス・アイと打ちあわせ
- ・6日「日本書籍出版協会」に「上野の森親子ブックフェスタ2022」協力依頼
- ・6日「機関紙『読書推進運動』650号」入稿
- ・7日「機関紙『読書推進運動』650号」責了
- ・11日「子どもの読書推進会議2021年度第2回幹事会」開催
- ・12日「書店新風会の「第56回新風賞贈賞式」に出席
- ・13日「子ども読書の日」ポスターについて文部科学省と打ちあわせ
- ・14日「機関紙『読書推進運動』650号」出来
- ・14日「伊藤忠記念財団」に「上野の森親子ブックフェスタ2022」出展依頼
- ・17日「子ども読書の日」ポスター責了
- ・21日「上野の森親子ブックフェスタ」運営委員会出席(ビデオ会議)
- ・22日「JBBYオンラインセミナー」子どもの本・日本と世界・視野の違いを探索」出席
- ・24日「上野の森親子ブックフェスタ2022」後援依頼を各関係先に送付
- ・25日「2021年度第4回常務理事会」開催(ビデオ会議)
- ・26日「文部科学省」に「2022・第64回こどもの読書週間」後援申請

編集部・事務局の ひとこと

- 昨年の野間読書推進賞受賞者、鹿児島県の鳥羽啓子さんが参加している「リフレの会」。東京子ども図書館の研修会とともに学んだ仲間と修了後も毎年、全国から集まってきたあひ、おはなしを語りあっています。これまでの受賞者一覧に「メンバー3人がいるにおどろきました」という鳥羽さん。そのうちのひとり、2014年受賞の島根県松江市「おはなしブリュッケン」の宇田祥子さんより、お手紙をいただきました。
- コロナ禍で月例のおはなし会会場の図書館が使えず、1年間活動休止を余儀なくされたブリュッケン。いまもまだ図書館は使えませんが、昨年4月から毎月会場を手配しておはなし会を再開しました。その会場費となつてるのは、7年前の野間読書推進賞の副賞とのこと。
- 副賞は、2021年のブリュッケン創立25周年の記念に、松岡享子さんを松江に招こうと大切に取つておいたそうです。市内・県内の一般人を対象とした、大規模な講演会や連続講座を開き、子どもにおはなしを届ける楽しさ、豊かさを多くの人に知ってもらうきっかけにする予定だったのだと思います。
- 再開後のおはなし会の様子からは、閉塞感に満ちた現在、子どもたちが生の声で語られるおはなしをどれほど必要としているかが伝わってきました。松岡さんから学ぶために用意していたものが、松岡さんが生涯大切にされた「子どもたちへおはなしを届ける場所を守る。歩みと思いは、つながっていきます。(伸)